

第13回シェアカン（指導医と研修医とが臨床経験を共有（”シェア”）し、1つの症例から最大限学ぶ方法を考える”カンファレンス”）の内容をシェア致します。

第12回より、研修指導の効率化・合理化を図るため、鈴木より呼吸器内科 吉田匠生 先生へ本カンファレンスのマネジメント業務を引き継ぎました。

今回も緊急患者が続き、参加者も少なかったため、臨時企画を行いました。

まずは毎回秀逸な企画で、司会者も愛読している雑誌『総合診療 2019年9月号 “ヤブ化”を防ぐ！外来診療基本のき』より、pearl 満載の座談会「ヤブ化を防ぐ10の方法」を紹介しました。

*参考：

藪医者について、wikipedia より

<https://ja.wikipedia.org/wiki/藪医者>

名医「やぶ医者」を表彰する、兵庫県養父市の取り組みについて

<https://www.city.yabu.hyogo.jp/7441.htm>

上記の通り、藪医者は名医のことである、という物言いがつきましたが、憧れのベテラン医師達が努力する姿に感銘を受けながら内容を共有しました。

特に”ツッコミを入れる”というワードが気になりましたので、これを今回のテーマとしました。

当院1年目研修医5名に、指導医になったつもりで”ツッコミ”を入れて頂きます。

題材は、過去にとある病院で、とある研修医が記載した入院時記録の病歴部分です。

前回カンファの内容と重なりますが、「完璧な病歴とは何か？」を考えることを通して自らの診療を振り返ってもらえたらと思います。

その他はノーヒントで、コピーを渡しました。

半年間、当院で研修した経験を踏まえて病歴が真っ赤になるぐらい”赤ペン”を入れてもらいます。

水曜にお渡ししたので、翌月曜夕方までに回収し、来週水曜に指導医とともに共有したいと思います。

教育は連鎖していくことを身をもって感じてきました。

当院で研修したからには、良い臨床医になることは当然として、良い指導医になって自分が良いと感じた教育を後進に引き継いで頂きたいと思います。

私自身は学生時代から良い指導医に運良く巡り合えました。この教育体験を伝えていくことは自分自身のミッションと捉えて日々取り組んでいます。

研修医の先生方は頭をフル回転させ、考え得る限りの“ツッコミ”を入れて下さい。

文責：内科・リウマチ科（研修担当） 鈴木 康倫

過去の記事はこちらから